

みやぎ「災害とメディア」研究会で「被災者と報道者の「こころ」を守るワークショップ」を開催しました(2019/5/21)

テーマ：災害メンタルヘルス、被災者、報道者

場所：河北新報社1階ホール（宮城県仙台市）

2019年5月21日(火)、河北新報社1階ホールにおいて、みやぎ「災害とメディア」研究会第6回例会が開催され、富田博秋教授（災害医学研究部門 災害精神医学研究分野）、佐々木宏之助教（同部門 災害医療国際協力学分野）が『被災者と報道者の「こころ」を守るワークショップ』を行いました。みやぎ「災害とメディア」研究会では約3か月に一度、例会を実施し、東日本大震災被災地巡検や勉強合宿などを実施してきました。今回は、発災直後に災害現場に入り自らも「こころ」に傷を負ってしまう可能性のあるメディア関係者、研究者、支援者を対象に、自分や被災者の「こころ」を守るにはどうすればよいかを学びました。

はじめに富田教授より災害時の被災者の精神状態やPTSD（心的外傷後ストレス障害）についての基本的な解説を受けた後、「災害現場で活動する報道機関従事者自身と周囲の関係者、家族のメンタルヘルス」、「取材対象となる被災者や視聴者のメンタルヘルス」についてグループ討論で課題、不安などを挙げ、それについての対応をさらにグループで話し合いました。参加者からは、「被災者には『取材者』ではなく『一人の人間』として接する」、「取材対象者には取材の目的・意義をきちんと伝える」、「十分な休養を取って（取らせて）取材にあたる」など、業種や年代の枠を越えて、さまざまな意見が出されました。

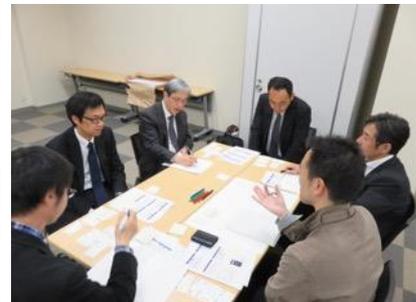
また、参加者からは PFA（サイコロジカルファーストエイド、災害・大事故などの直後に提供できる心理的支援）研修を受けたいとの声もあがり、今後の「災害とメディア」研究会での実施が検討されます。



講演する富田教授



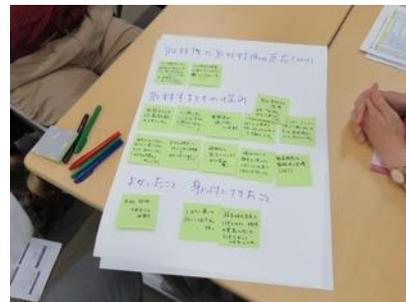
グループワーク開始



課題について話し合う参加者



業種を越えて頭を悩ませる



意見を付箋に書いてまとめる



グループの意見を発表する

文責：富田博秋、佐々木宏之（災害医学研究部門）